

〔研究余滴〕〈エッセイ〉

文化村と生活改善同盟会

儀野 さとみ

The Housing-Village (*BUNKAMURA*) and the Union of
Life-Improvement (*Better Life Union*)

ISONO Satomi

1. はじめに

筆者が所属する環境デザイン学科の建築・インテリアデザインコースには、住宅メーカーに就職する学生が毎年いる。住宅メーカーのモデルハウスが立ち並ぶ住宅展示場は、戸建て住宅を望む人々が、建物の外観から内部のインテリアに至るまでを実体験し、比較できる場所である。多数の住宅が立ちならぶ住宅展示場の始まりは、1922年に開催された平和記念東京博覧会（以下、平和博と記す）のなかの文化村であるとされ、木村徳國、内田青蔵、藤谷陽悦、宮崎信行などによる研究がある¹⁾この文化村は建築学会が当時の住宅事情を踏まえ展示企画を持ち込んで実現しており、居間中心形住宅という平面の特徴とともに住宅史の分野においても重要な博覧会である。文化村には14棟の住宅が建てられ、このうちの1棟が筆者の研究対象である生活改善同盟会（以下、同盟会と記す）による住宅である。これまでの同盟会研究をもとに文化村出品について紹介したい。

2. 文化村の会場について

平和博は、東京府が主催し1922年3月10日から7月31日まで開催された。文化村設置の目的は、和と洋による二重生活の弊害や住宅不足を背景に見本となる小住宅を提示することであった²⁾。平和博の会場は東京上野公園一帯で、第1会場の一角に文化村のエリアがある。平和記念東京博覧会配置図（図1）に示されたように動物園と博物館の近くにあり、商工業活動写真館の隣と染色館の前の2か所に分かれている。この周辺には、茶店、スシ、カシ、ソバ、カルピス、料理、洋食と表記される飲食系の出店や、エハガキ、タバコを販売する出店がみられる³⁾。

文化村の会場は平和博閉会後に公園



図1 平和記念東京博覧会配置図（文化村周辺部分）
動物園、博物館の語は、筆者が加筆した。

に戻すことになっており、住宅建設の際に樹木の伐採が許されず、住宅の庭園は作られていない。展示住宅は売品であり、あわせて住宅建設の注文を受けることが出品条件に含まれていた。

今日の住宅展示場では展示住宅の中に入って見学できるが、この文化村では1棟を除く13棟は招待券や観覧券あるいは名刺を提示しないと内部に入れず、図面や価格などの説明書が不十分であるなど、見学者から不満の声がでていたという⁴⁾。同盟会では、平和博開催後の3月13日に主任幹事会を開き、出品住宅の看守について協議している。1棟に1人の看守が置かれたのかどうかは不明だが、建物管理と見学者対応は必要であった。

特徴や費用などの情報提供が不十分であるという声があがる一方で、平和博会長の許可を得た公式ガイドブックといえる小冊子『平和記念東京博覧会案内』（1922年3月29日発行）⁵⁾が販売され、その冊子には文化村の各住宅の特徴、広さや費用などについて掲載されている。さらに冊子『文化村の簡易住宅』（1922年5月25日発行）では、建物の外観や内部の写真、図面と説明が掲載されている⁶⁾。

3. 出品活動の中心人物

東京府から平和博賛助依頼を受けた建築学会では建築館と住宅実物出品展示の特設を要望し、1921年5月2日の理事会において会長名で関係協会・組合などに協力依頼を決めている。翌月の6月2日には住宅問題常置委員会で平和博の件を協議している。同盟会は機に応じて建築学会から依頼を受け出品に向けて活動していくのだが、その活動は表1「生活改善同盟会平和記念東京博覧会に関する事項」の通りである⁷⁾。

同盟会では、先の建築学会の理事会から1か月後の6月4日の常任幹事会において、建築学会の紹

表1 生活改善同盟会平和記念東京博覧会に関する事項

年月日	委員会等：内容	出席者*
1921. 6. 4 大正 10	時記念日挙行実行委員会及び常任幹事会 ：建築学会の紹介に係る平和博住宅出品に関し回答の件（賛同の旨回答に決定）	野口、東郷、野中、野田、濱、中山、棚橋、江藤、千布、内藤
1921. 7. 6 大正 10	常任幹事会 ：平和博覧会に住宅を出品する件	中山、濱、大迫、野口、野田、田中、江藤、千布、内藤
1921. 7. 29 大正 10	平和博小住宅出品協議会 ：出品願書、図案の依頼、建築請負の選定、その他に関する件	田辺、大熊、田村、本郷、野口、東郷、棚橋、江藤
1921. 11. 22 大正 10	平和記念出品委員会 ：平和博本会出品小住宅建築請負に関する件	田村、本郷、大熊、田辺、野口、嘉悦、千布、上遠組代人二人
1921. 12. 29 大正 10	平和博出品委員会 ：平和博出品の小住宅に並びに庭園に関する件	田村、本郷、東郷、三輪田、野口、棚橋、大迫
1922. 1. 30 大正 11	平和博出品委員会経理部主任会 ：平和博出品小住宅付属 家具装飾請負の件	田辺、大熊、東郷、棚橋、
1922. 3. 10 大正 11	平和記念東京博覧会開会 (文化村へ改良住宅一棟付属庭園設計並びに家具を出品)	
1922. 3. 13 大正 11	主任幹事会 ：博覧会会場にて宣伝ビラ配布の件、博覧会主出品住宅看守人の件、文化村出品住宅案内状発送の件	乗杉、市川、宮田、棚橋、東郷
1922. 3. 20 大正 11	平和博出品委員経理部幹事会：庭園設計の件、平和博出品住宅請負人上遠喜三郎に対して礼状の件、住宅建築注文請負に関する件、実施設計図仕様書分与に関する件、平和博出品住宅設計図作成者に謝礼の件	大熊、棚橋
1922. 4. 11 大正 11	主任幹事会 ：平和博出品住宅設計者に謝礼並びに工事請負者への謝礼の件、住宅建築希望者に関する件、	三輪田、野口、市川、大迫、棚橋
1922. 5. 14 大正 11	全国府県社会教育主事招待会（平和記念東京博覧会第1会場内、平和館にて昼食会開催（文化村見学）（招待客30余名出席））	乗杉、大迫、中田、市川、吉田、嘉悦、渡邊、中山

* 太字：建築の専門家、庭園の専門家、施工会社

介に係る平和博住宅出品を決める。7月6日の常任幹事会においても住宅出品について諮っているが、詳細は不明である。7月29日には平和博小住宅出品協議会を開催して出品願書、図案の依頼、建築請負の選定について協議している。参加者は、実運営の中心人物である棚橋源太郎、家庭経済を専門とする野口保興、会社の専務取締役である東郷昌武、そして、建築の専門家である田辺淳吉と大熊喜邦、庭園の専門家である田村剛と本郷高德、事務方の江藤の8名が出席している。この会までに、住宅は田辺と大熊が、庭園は田村と本郷が担当することを決めたものと推察する。

次の11月22日の会には、田辺、大熊、田村、本郷の4名が揃って出席している。庭園を協議した12月29日の会には、田村と本郷は出席しているが、田辺、大熊は出席していない。また、家具装飾請負を協議した1月30日の会には田辺と大熊は出席しているが、田村、本郷は出席していない。住宅は田辺と大熊が、庭園は田村と本郷というように、担当業務に係る会に出席している様子が伺える。なお、11月22日の会には建築請負の上遠組から2名出席している。

3月20日の平和博出品委員会経理部幹事会の出席者は棚橋と大熊の2名のみで、協議事項は、住宅建設を請け負った上遠組の上遠喜三郎への礼状の件、展示住宅建設の注文が出た場合の建築請負に

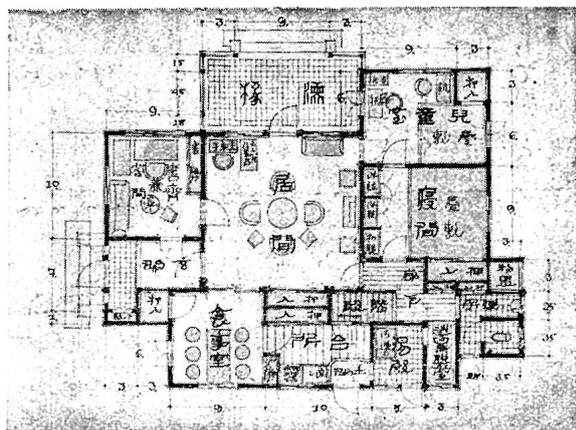


図2 平面図

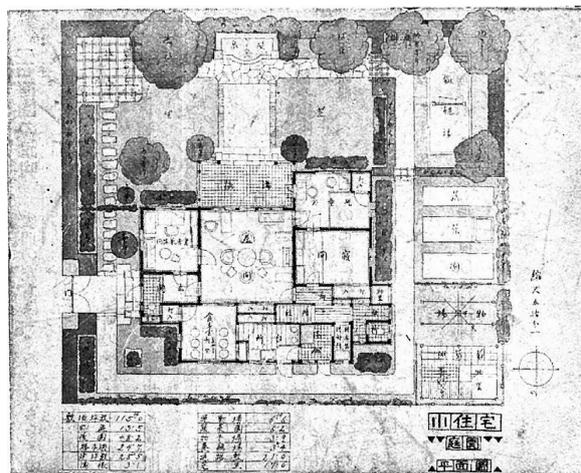


図5 庭園平面図

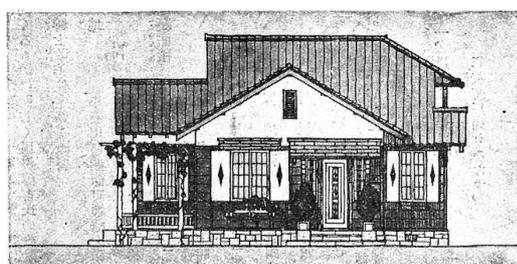


図3 正面図 (東立面図)

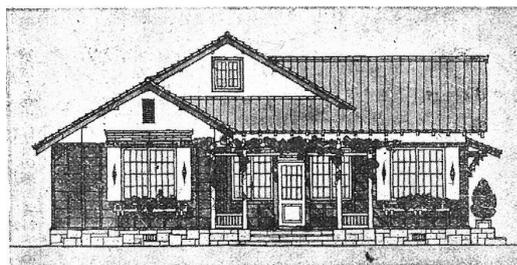


図4 側面図 (南立面図)

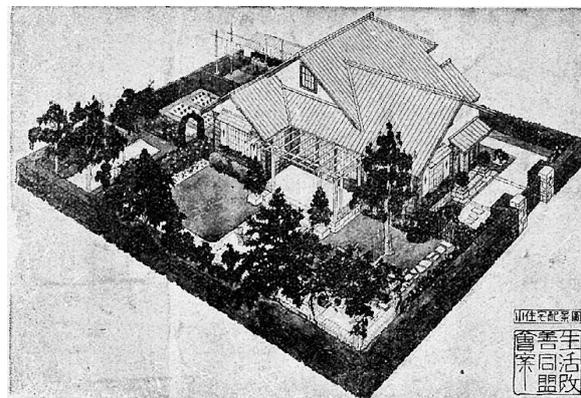


図6 庭園配景図 (アクソメ図)

図2～図6 生活改善同盟会出品住宅の図面
同盟会刊の『住宅家具の改善』に掲載された文化村出品住宅の図である。このほかに2階平面図がある。

について、展示住宅の実施設計図仕様書の分与について、出品住宅設計図作成者への謝礼についてであった。同盟会には設計部門や実際に建築物を請け負うような部門はなく、実施設計図仕様書の扱いと注文を受ける請負業者を決めたものと考えられる。上遠喜三郎は同盟会の仕事を請け負うだけでなく、自らも1棟出品している。

田村と本郷が家族が憩えるようにデザインした庭園は、樹木名を記した庭園平面図（図5）と庭園配景図と記されたアクソメ図（図6）がある。庭園には、小規模ながら菜園も組み込まれ、柿の木や蔬菜類が植えられている。庭師による手入れよりも、居住者家族が手入れをしながら日々の疲れを癒すことを考えている。先にも記したが、庭園は造られなかった。

4. 生活改善同盟会

生活改善同盟会は、文部省普通学務局第四課初代課長の乗杉嘉寿によって発案され、社会教育の一端を担う半官半民の外郭団体として1920年1月に発会している。この設立活動ならびに運営の中心的人物は東京教育博物館長の棚橋源太郎である。1922年3月13日の乗杉が出席した主任幹事会では文化村出品住宅案内状発送を決め、5月14日の全国府県社会教育主事招待会において平和博の会場で昼食会を開催し、そのあとに文化村の見学を組んでいる。社会教育主事は第四課の担当であり、同盟会は第四課と関わりながら事業を展開している。

5. 住宅の設計者

文化村展示住宅の担当は大熊と田辺の2名であるが、出品住宅の建物の設計者は大熊である⁸⁾（図2～図4）。田辺は建築学会において住宅の実物展示実現へと押し進めた人物であり、平和博覧会準備委員会の委員長を務めている。そして同盟会では、住宅改善調査委員会の副委員長でもあった。住宅の改善に関する検討を行う住宅改善調査委員会では、委員会内に特別委員会を1921年6月に設け⁹⁾、7月に『住宅の間取り及び設備の改善』を刊行している。この冊子は、1920年に発表した住宅改善の方針をもとに具体的な住宅改善の方法を説明しており、その内容をまとめたのが特別委員会である。特別委員会の委員には、田辺、大熊、田村、本郷の4名も名を連ねている。田辺と大熊は大学の同期であり、同盟会の出品担当となる段階までには打ち合わせていた可能性もある。設計については推測の域は出ないものの、田辺の建築学会内における立場を考えると、大熊単独とするよりも田辺の意見も入っていたのではないかと考える。

なお、平和博では出品物を審査して優れた展示品に対して褒章を授与しており、同盟会出品住宅に対しても「ぶらんヨク整ヒ外観亦趣味あり」¹⁰⁾と評価し、金牌を授与している。

6. おわりに

本稿では、平和記念東京博覧会の文化村展示住宅について、生活改善同盟会がおこなった出品活動を中心に紹介した。同盟会がかかわった住宅に関する活動については、都市部から農村部まで幅広いこともあり、近代文化研究所の『ブックレット 近代文化研究叢書』6の修正など、今後も調査・研究を深めていきたいと考えている¹¹⁾。

この生活改善同盟会の研究に際してご指導を賜り、その後も暖かく見守って下さいました恩師平井聖先生に心より感謝申し上げます。

注

- 1) 木村徳國『日本近代都市独立住宅様式の成立と展開に関する史的研究』私家版 1959年、藤谷陽悦「平和博・文化村出品住宅の世評について」『日本建築学会大会学術梗概集』1982年 pp. 2363~2364、内田青蔵「住宅展示場の原風景としての「文化村」」西和夫編『建築史の回り舞台』彰国社 1999年 pp. 352~369、内田青蔵「建築学会の活動からみた大正11年開催の平和記念東京博覧会文化村に関する一考察」『日本建築学会計画系論文集』第529号 2000年 pp. 263~270、内田青蔵、藤岡洋保「峰岸邸（旧平和記念東京博覧会文化村島田藤吉出品住宅）について」『日本建築学大会学術梗概集』1995年 pp. 5~6、宮崎信行「近代日本における居間中心型住宅の平面計画理論に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』第649号 2010年 pp. 551~558
- 2) 内田「建築学会の活動からみた大正11年開催の平和記念東京博覧会文化村に関する一考察」前掲1)
- 3) スシなどの店舗情報は原図表記を用いた。「平和記念東京博覧会配置図」『平和記念東京博覧会事務報告』上巻 東京府庁 1923年
- 4) 内田「住宅展示場の原風景としての「文化村」」前掲1)
藤谷「平和博・文化村出品住宅の世評について」前掲1)
- 5) 須賀健吉『平和記念東京博覧会案内』公認平和記念東京博覧会案内発行所 1922年
- 6) 高梨由太郎編輯『文化村の簡易住宅』洪洋社 1922年、この他に、高橋仁『文化村住宅設計図説』鈴木書店 1922年などがある。
- 7) 拙稿『生活改善同盟会の沿革とその住宅改良に係る活動に関する研究』（学位論文）掲載の「表4-6 平和記念東京博覧会出品活動」（p. 140）を基に作成した。同盟会の機関誌等に掲載された平和博に係る活動記事には、参加者氏名は名字のみ記載されているため表中はそれに従った。本文の氏名は、その人物と特定できた場合のみフルネームを記載している。
- 8) 『住宅家具の改善』生活改善同盟会 1924年 p. 94 「本会調査員工学博士大熊喜邦の設計になるもの」と記載されている。なお、昭和女子大学所蔵の冊子には、消印が付いた文部省の第四課の所蔵印がついている。所蔵印は3行から構成されており、中央の行の部局名は読解できなかった。同盟会が関わっていた普通学務局の第四課であれば、所蔵印があるこの冊子は貴重な1冊といえる。
- 9) 「時報 生活改善同盟会」『建築雑誌』第35輯402号 建築学会 1920年 p. 67 (p. 281)
- 10) 『平和記念東京博覧会審査報告書』下巻 平和記念博覧会 1922年 pp. 950~951
- 11) プックレット6では必要な説明が不足しており、稿を改めて記したいと考えている。

図版出典

図1 : 東京府『平和記念東京博覧会事務報告』上巻 東京府庁 1923年（東京都中央図書館所蔵）

図2~6 : 『住宅家具の改善』生活改善同盟会 1924年（昭和女子大学図書館所蔵）

(いその さとみ 環境デザイン学科教授・近代文化研究所所員研究員)